

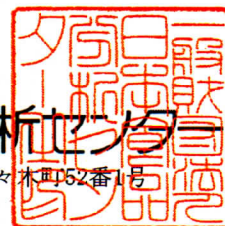
依頼者 認知機能サプリメント株式会社

検体名 ヘルシアーナ水素

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木452番1号



2016年(平成28年)04月27日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
ORAC	*1 1.1×10^3 $\mu\text{mol TE/g}$		1	

*1 カプセルの中身について試験した。

注1. Oxygen Radical Absorbance Capacity(活性酸素吸収能力)。抽出液に50%エタノールを用いた。参考文献(Wu, X. et al, J. Agric. Food Chem., 2004, 52, 4026-4037)。1 μmol のTroloxが示す活性を単位とした。

以 上

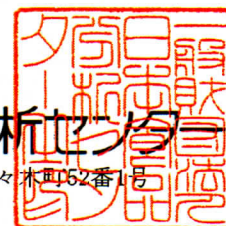
依頼者 認知機能サプリメント株式会社

検体名 ヘルシアーナ水素

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木1-52番1号



2017年(平成29年)03月06日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目		結果	定量下限	注	方法
スーパーオキシド消去活性	*1	1.1×10^5 単位/g		1	電子スピン共鳴(ESR)法
DPPHラジカル消去活性	*1	1.9×10^3 $\mu\text{mol TE/g}$		2	吸光光度法(可視)

*1 カプセルの中身について試験した。

注1. J. M. McCord及びI. Fridovichが定義した単位 [J. Biol. Chem., 244, 6049(1969)]に相当する消去能として、0.1mol/lリン酸緩衝液(pH7.8)で抽出後、60分間室温で放置したものについて試験した。

注2. 参考文献(篠原和毅ら, 食品機能研究法, 光琳, 2000, 218-220)。1 μmol のTroloxが示す活性を単位とした。50%エタノールで抽出後、60分間室温で放置したものについて試験した。

以 上

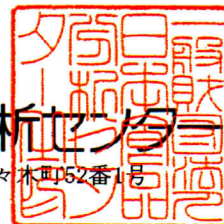
依頼者 認知機能サプリメント株式会社

検体名 ヘルシアーナ水素

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木1-52番1号



2016年(平成28年)01月08日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
pH	7.3 (23 °C)		1	ガラス電極法
酸化還元電位 (25°C vs. NHE)	-120 mV		2	
酸化還元電位 (25°C vs. Ag/AgCl)	-320 mV		3	白金電極法

注1. 検体カプセル4個分の中身に水100mlを加えた懸濁液について測定した。

注2. 標準水素電極を比較電極とした換算値。酸化還元電位 (25°C vs. Ag/AgCl) から算出。検体カプセル4個分の中身に水100mlを加えた懸濁液について測定した。

注3. 3.33mol/L KCl-Ag/AgClを比較電極とした酸化還元電位。機種:F-73[株式会社 堀場製作所] 検体カプセル4個分の中身に水100mlを加えた懸濁液について測定した。

以上